

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 65人 |
| ② 算数 | 65人 |
| ③ 理科 | 64人 |

5 留意事項

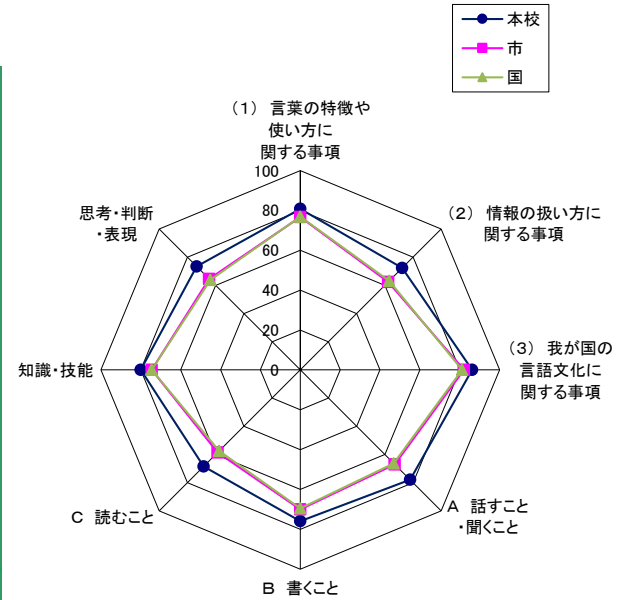
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	80.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	72.3	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	77.9	67.0	66.3
	B 書くこと	75.9	70.0	69.5
	C 読むこと	68.5	58.6	57.5
観点	知識・技能	80.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	73.5	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

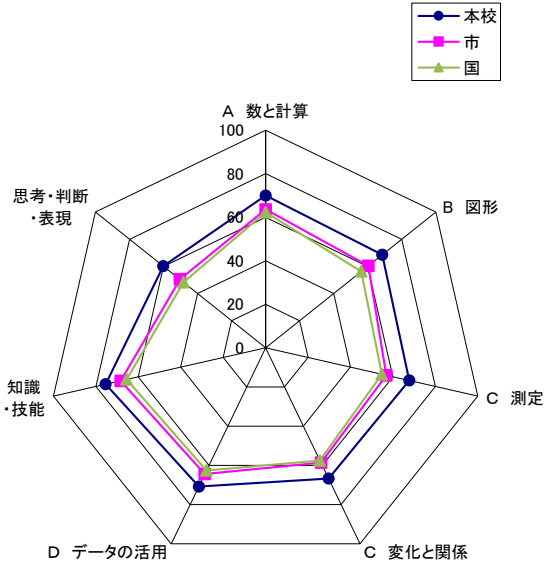
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は、国の平均をやや上回っている。 ○既習漢字を文の中で正しく書く問題の正答率は87.7%であり、よくできている。 ●同訓の漢字を使い分ける問題の正答率は73.8%であり、意味による使い分けには課題が見られる。	・漢字や熟語については、引き続きプリントやドリルなどを用いた繰り返しの学習を行う。 ・文章を書く際にはできるだけ既習漢字を使うよう促したり、漢字辞典などで意味を調べさせたりして、意味による使い分けの習熟を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は、国の平均を10ポイント程度上回っている。 ○情報と情報の関係付けや図などによる語句と語句の関係を理解して正答できた児童が72.3%いた。 ●図の形だけに目が向き、情報と情報の関係を捉えられなかった児童が20.0%以上見られた。	・複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために、短文を読んで要約したり、キーワードを抜き出したりと、的確に内容を捉えて表現する活動を取り入れていく。 ・国語以外の教科においても、資料から分かることを書き出したりまとめたりする活動を、今後も取り入れて指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、国の平均を5ポイント上回っている。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができた児童が86.2%いた。	・学校図書館の資料などを活用し、学校生活の中で、言葉遊びや語源、比喩表現、方言など様々な事例に触れる機会を増やすことで、言葉の面白さや奥深さを感じられるようにしたい。 ・自主学習などで、言葉の語源を調べたり、比喩表現を使った作文に取り組ませたりしていく。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は、国の平均を11ポイント以上上回っている。 ○インタビューの中での発言の意図を捉える問題の正答率が、国の平均を13ポイント程度上回っている。 ●目的に応じて、話題を変えたり、材料の分類や関係付けをしったりして発言されたものであることを捉えられた児童は、66.2%に留まった。	・引き続きICT機器やホワイトボード等を用いた意見交換の場を積極的に設けていく。その際、めあてを明示するとともに、自分なりの目的を考える時間を設けてから話し合いに臨めるようにする。
B 書くこと	○平均正答率は、国の平均を6ポイント以上上回っている。 ○ちらしの文章構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は、国の平均を18ポイント近く上回っている。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は、国の平均を6ポイント程度下回っている。	・自分の考えをもち、目的や意図に応じて相手に分かりやすく伝える活動を、教科横断的に様々な場面で繰り返し行っていくことで、「考えて書く」力を更に高めていく。
C 読むこと	○平均正答率は、国の平均を11ポイント上回っている。 ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題の正答率は、国の平均を13ポイント以上上回っている。 ●目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題の正答率は52.3%であった。	・中心となる語や文に線を引ながら読んだり、繰り返し出てくる語を結び付けたりすることを今後も継続して学習を進めていく。 ・どのような情報を探しているのかを明確にしながら、文章と図表の関連性を考えるなどの手順を示して、丁寧に文章に向き合わせることで、必要な情報を見付け出せるようにしていく。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.0	63.6	62.3
	B 図形	68.5	60.4	56.2
	C 測定	67.7	56.9	54.8
	C 変化と関係	66.7	58.6	57.5
	D データの活用	70.8	64.4	62.6
観点	知識・技能	75.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	60.2	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

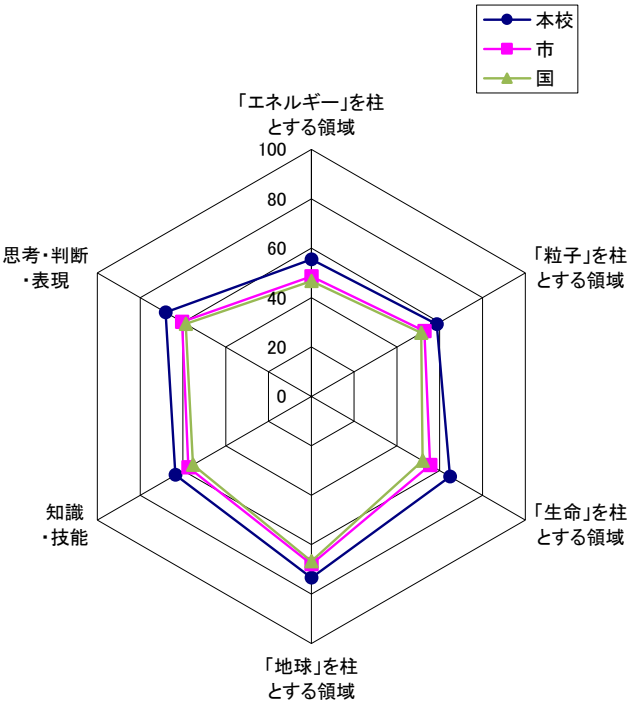
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は、国の平均を上回っているものが多かった。 ○数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分としてとらえる問題では、国の平均を28.1ポイント上回った。 ○●分数の加法について共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題では、国の平均を17.0ポイント上回っているが、正答率は40.0%であった。 ●小数の加法について数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える問題では、国の平均を1.8ポイント下回っている。	○問題解決の方法について言葉で説明させる機会を意識的に増やすことで、言語化する能力の向上を図る。 ・単位分数の捉え方と通分の捉え方について混同していることが予想されるので、分数の加法を扱う際に、共通する単位分数のいくつ分かを授業の中で強調して指導する。 ・小数第一位と小数第二位が混合している問題に不慣れであったことが予想されるので、授業内で復習の時間を設け、フォローアップしていく。
B 図形	○平均正答率は、国の平均を上回っているものが多かった。 ○どの問題でも無回答率は0.0%であった。 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題では、国の正答率を23.0ポイント上回った。 ●角の大きさについての問題では、市の正答率を2.3ポイント、国の正答率を2.4ポイント下回った。	・問題文をよく読み、どんな情報があり、何を聞かれているのかを確かめるよう指導をする。 ・具体物を用いて視覚的に想起させ、実際に問題に取り組む際にイメージしやすくなるよう指導する。 ・数値化されていない角に対して、マス目などを利用して大きさを比べられることを再確認する機会を授業内で復習の時間として設ける。
C 測定	○平均正答率は、国の平均をすべて上回っている。 ○どの問題でも無回答率は0.0%であった。 ○はかりの目盛りを読む問題では、国の正答率を16.0ポイント上回っている。 ○●伴って変わる2つの数量の係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題では、全国の正答率を9.8ポイント上回ったものの、正答率は58.5%と低かった。	・日常の場面で測定する機会が多くあるので、現実とのつながりを意識したり、実際に操作する場面を作ったりしながら指導していく。特に理科との関連を想起させていくことで教科横断的に学習を進めていく手助けをする。 ・問題場面を具体的にイメージし、必要な情報や気を付けるべき点などに着目できるよう、多様な問題に取り組ませながら、文章を読む力の向上を図る。
C 変化と関係	○平均正答率は、国の平均をすべて上回っている。 ○どの問題でも無回答率は0.0%であった。 ○●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍かになっているかを表す問題の正答率は、国の平均を17.6ポイント上回っているが、正答率は58.5ポイントと低かった。	・百分率の習熟が不十分であることや割合への苦手意識が強い児童が多いことなどが予想されるので、基礎事項から丁寧に復習することでフォローアップしていく。 ・「10%増量」などは、実際の生活で目にするキーワードなので、自分事にして考えられるよう、身近な例を挙げながら指導していく。 ・問題解決の過程を言葉で説明させる機会を意識的に増やすことで、自分の考えを言語化する能力の向上を図る。
D データの活用	○平均正答率は国の平均をすべて上回っている。 ○どの問題でも無回答率は0.0%であった。 ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題では、国の平均を13.0ポイント上回っている。 ○●目的に応じて適切なグラフを選択して、出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、国の平均を15.2ポイント上回っているが、正答率が46.2%と低かった。	・グラフや表を読み取る学習だけでなく、読み取った内容を言語化できるように、話し合い活動や根拠を基に説明し合う活動を意識的に行う。 ・社会科や総合的な学習の時間などの授業内でもデータの活用を意識した授業を行うことで、教科横断的な学習をより深めていく。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.5	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	58.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	64.8	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	73.4	67.9	66.7
観点	知識・技能	63.5	57.5	55.3
	思考・判断・表現	68.1	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、すべての問題で国の平均を上回っている。 ○電流が作る磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率が、国の平均を11.1ポイント上回っている。 ●身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかを正しく選ぶ問題の正答率が18.8%であった。国の平均を8.2ポイント上回っているものの、低い正答率である。	・電気や磁石の分野では、一人一人が実験をすることを通して、結果から分かることを一つ一つ丁寧に押さえ、金属に共通することと個別の性質を児童が理解できるように努める。 ・単元の導入部で既習内容についての振り返りを行うことで、学習の連続性を意識させ、基礎的事項の確実な定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、ほとんどの問題で国の平均を上回っている。 ○水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に概念的に理解しているかどうかをみる問題で、国の平均を12.8ポイント上回っている。 ●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に概念的に理解しているかどうかをみる問題で、国の平均をわずかに下回った。	・「沸騰」や「蒸発」といった語句の意味が定着していない児童がいるため、実験や、動画の視聴を通して具体的な現象と語句を結び付けて、正しく理解できるようにする。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、すべての問題で国の平均を上回っている。 ○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題では、国の平均を15.2ポイント上回っている。 ○レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題では、国の平均を15.4ポイント上回っている。	・実験をする際に条件を一つ一つ丁寧に押さえる指導を通して、条件制御についてきちんと整理して理解できるようにする。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題では、国の平均を11.4ポイント上回っている。	・自然現象や科学的現象について、言葉と結び付けて理解できるようにする。 ・結果と考察を整理し、日常経験と学習を結び付けて考えられるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問(5)「自分には、よいところがあると思いますか。(本校肯定的回答92.3%)」、質問(6)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(本校肯定的回答98.5%)」に対して、いずれも肯定的回答率が全国平均を上回っている。これは、様々な学校行事や児童会活動、学級活動において、児童が主体的に活動できる場を設け、自己肯定感が高まる指導や支援と評価を行ってきたことによると考えられる。

○質問(28-1)～(30-7)PC・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問に対して、ほとんどの項目で、肯定的回答率が県や全国平均を上回っている。授業の中で、調べ学習やプレゼンテーション、話し合い活動など、ICT機器を効果的に活用したことで、技能が身に付いたと考えられる。今後は、ソフトウェアを活用して学習の記録をクラウド上に蓄積して学習の成果を振り返れるようにしたい。

○質問(37)「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか。(本校肯定的回答92.3%)」に対して、肯定的回答率が県や全国平均を上回っている。授業の振り返りを行うことで、学習したことが実生活でどのように生かせるか考えたり、次の学習の目標を立てたりする力が身に付いていると言える。

○質問(52)～(59)算数の学習についての質問に対して、ほとんどの項目で、肯定的回答率が県や全国平均を上回っている。特に、「算数の勉強は得意ですか。」「算数の勉強は好きですか。」「算数の授業の内容はよく分かりますか。」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」では、全国平均を約10ポイントも上回っており、算数の学習に自信をもって意欲的に取り組んでいると言える。

●質問(44)～(51)国語の学習についての質問に対して、「国語の授業の内容はよく分かりますか。」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」では、肯定的回答率が県や全国平均を上回っているが、「国語の勉強は得意ですか。」「国語の勉強は好きですか。」では、肯定的回答率が下回っている。国語の学習の大切さは理解しているが、国語の学習に対して興味・関心がもてない児童が多いことが分かる。今後は、学校図書館を活用し読書に親しむ機会や、学校生活の中でことわざや比喩表現など様々な言葉に触れる機会を増やしたり、児童の生活との結び付きや教科横断的な授業を工夫したりすることで、国語の面白さを感じさせ、興味・関心を高めていきたい。

宇都宮市立陽東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・言語活動の充実。	・国語だけでなく、様々な教科において日頃から課題に対する自分の考えや、振り返りを文章で書く活動を多く取り入れる。	・「書くこと」に関する平均正答率は、国の平均を6ポイント以上上回っている。 ・目的や意図に応じて自分の考えが伝わるような書き方を工夫する問題の正答率は、国の平均を6ポイント程度下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の学習の大切さは理解しており、よく分かると感じている児童の割合は全国平均を上回っているが、「国語の勉強が得意」や「国語の勉強が好き」と感じている児童は平均を下回っている。	・相手意識をもって、自分の考えを表現する。	・授業の中で、どのように考えたのかについて説明する文章を書かせて交流の場を設定することで、相手に自分の考えを伝えられてよかったという経験を積み、学習に意欲的に取り組めるようにする。 ・ICT危機を活用し、表現することへの抵抗感を軽減するとともに、自分の表現を分かりやすく伝えようとする意欲を高める。